



命のための税金

今回この作文を書くにあたって、どんなことに税金が使われているかを調べた。そこで目についたのが、犬猫の殺処分に対する税金だ。内訳は、殺処分施設の維持費、燃料費、人件費などなど。大きさなどによっても異なるが、一頭あたり約二万円から七万円、年間数億円の費用がかかっているという。そしてこの費用が、税金から賄われているのだ。

「命を奪うために税金が使われている。」この事実を知ったとき、私はとても違和感を覚えた。私たち子どもはまだ税金を納めてはいない。けれど税金が、犬猫であろうと命を奪うために使われていると思うと複雑な気持ちになる。しかし、殺処分をしないとまた違った問題が起こることも理解している。たとえば、野良動物を放置すると、交通事故や噛みつき事故、感染症などを引き起こす恐れがある。また、ペットとして飼う人も多いのだが、個人の勝手な事情で捨ててしまう人も多い。

その結果、野良動物が増え、保健所に連れていかれ、殺処分されるのだ。過去には「犬税」という、犬を飼育している人に一定の税が課せられていた。これにより、人間が無責任に犬を飼うことのないようにしたり、飼育する犬の頭数を間接的に制限したりする効果があった。しかし一九

八二年に「犬税」は廃止された。私はこの税を復活させるべきだと考える。廃止理由に税負担の不平等さがあったようだが、命を自主的に預かっている以上、不平等さを感じる点はないように思える。実際ドイツやオーストリアなどの国々では「犬税」が導入されている。今の日本の状況を鑑みる限り、「ペット税」といった税を再び導入するべきなのではないか。

一方で、私たちの税金は殺処分のためだけでなく、各地方自治体や保護団体の強化にも使われている。その結果、一九七四年には約百二十万匹が殺処分されていたのだが、二〇二三年には九千七匹にまで減少している。税金を使うことで、殺処分数の大幅な減少につながっているのだ。

私ははじめ、貴重な税金は命を奪うのではなく、命を救うために使うべきではないかと思っていた。しかしこの問題に向き合っていくにつれ、「命」に対しての考え方が変化していった。税金が命を奪うためだけでなく、命を救うためにも使われていることを知り、犬猫に使われる税金の大切さを学んだ。もちろん殺処分に賛成するわけではない。今でも残酷な方法だと思っている。だが人間のせいで罪のない多くの犬猫の命が奪われていることが事実である限り、私たち人間はこの事実を重く受け止めるべきだと思う。そのために、これからも私たちの税金で治安が守られ、犬猫も救われる日本であるべきだと私は思う。